

## サイエンスカフェの概要について（事後報告）

1. 開催日時：令和2年1月15日（水） 20時30分～22時30分

2. 開催場所：Shot Bar 周太郎（大阪府豊中市曽根西町3-5-33）

3. 関係団体等：なし

### 4. 役割

コーディネーター：中村征樹（大阪大学准教授・日本学術会議連携会員）

ゲスト：中野萌士（奈良先端科学技術大学院大学大学院生）

### 5. 概要：

今回のサイエンスカフェは「私たちが認識する世界を変化させるバーチャル・リアリティ」というテーマで行われた。

最初に、ゲスト自身の「そうめんをラーメンに変える」研究が紹介された。実験参加者はヘッドマウントディスプレイを着用してそうめんを食べるのだが、ディスプレイを通した視界では、そうめんの上にラーメンの3Dモデルが重ねられている。この条件でそうめんを食べると、実験参加者はそうめんからラーメンの味を感じるようになるのである。ゲストによれば、視覚や聴覚を刺激することで味覚を変化させる試みは過去にも行われており、白ワインを赤ワインのように着色する、湿ったポテトチップにクリスピーな音を重ねるなどの研究も紹介された。このような研究の応用の1つとして、何らかの理由で食べることができない食品の食体験を、食べても良い食品から得ることができるようになるということが挙げられる。

この後、話題はバーチャル空間における3Dアバターを用いたコミュニケーションに移った。バーチャル空間では、性別や容姿を自分好みに設定したアバターで交流することができる。ゲストによると、VRで学会が行われるなど、驚くべき試みもあるらしい。VRでのコミュニケーションで起きる興味深い現象として、たとえば視覚のVRにおいて現実には存在しない触覚などを感じるファントムセンス、着ているアバターによってその人の行動や感じ方が変化する事例、VRで受けた暴力的体験によって実際にダメージを受ける事例などが紹介された。

そのほか、ゲストと参加者の間では、紅白歌合戦で話題となったAI美空ひばりの是非など、VRとも関連の深い議論が活発に行われた。ゲストによるVRの現在と未来についてのトークに対する、参加者の興奮が伝わる一夜だった。

**6. 参加人数：**

講演者等：3名

その他の参加者：5名

**7. 特記事項：**

会場となった「Shot Bar 周太郎」には、サイエンスカフェの趣旨に賛同いただき、参加者に1ドリンク以上の注文をお願いすることで会場を無償で提供いただいたほか、常連客へのイベントの告知にも協力いただいた。また、ゲストのドリンクについてサービスしていただいた。